

わたし ちきゅう かんきょう
今、私たちが住む地球には、いろいろな環境問題が起きています。

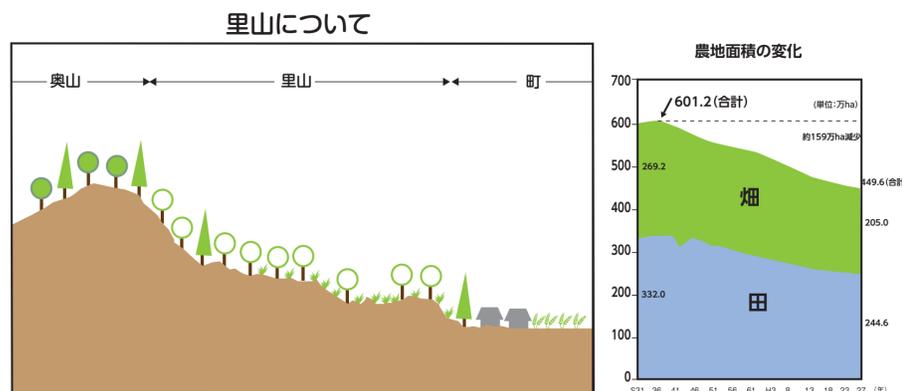
かんきょう
環境問題について調べて、自分にできることを実行しましょう。

生き物と自然とのつながり



生き物のすみかの減少

人間が生活している町と人間があまり立ち入らない奥山の間にある場所は「里山」とよばれ、生き物にとって大切なすみかとなっています。しかし、この50年くらいの間に多くの里山の森林が切り開かれ、住宅地などにかわってきています。また、小さな生き物のすみかともなっている田や畑などの農地も減っています。



生き物と自然とのつながりを考えよう

植物は、根から吸い上げた水や大気中から取り入れた二酸化炭素と、太陽光によって生きていくために必要な養分をつくっています。これを光合成といい、このとき植物は、酸素を排出します。一方で、生き物は呼吸により酸素を吸収し二酸化炭素を排出しています。このように、生き物と自然はつながり合っています。



東京都の取組

花と緑の東京募金

花と緑あふれる都市東京の実現に向けて、「花と緑の東京募金」により集まったお金を、さまざまな事業に活用しています。

募金を活用する事業



江戸のみどり登録緑地

東京に昔からある植物を育てることで、東京の生き物に適した環境を回復させる取組として、平成29年から「江戸のみどり登録緑地」の登録を行っています。

シンボルマーク
(優良緑地)



花粉の少ないスギの開発

国立研究開発法人森林研究所が、都府県と共同で開発した品種で、花粉の発生量が、普通のスギの100分の1以下となっています。

〈普通のスギ〉



〈花粉の少ないスギ〉



東京都の森や島にすむ生き物たち

東京都には多摩地域の森林や、小笠原・伊豆諸島などの豊かな自然があり、いろいろな生き物がすんでいます。

<p>多摩地域の森林にすむ生き物</p> <p>オオタカ</p> <p>タカの仲間。オスが羽を広げると1mほどに</p>	<p>多摩地域の森林にすむ生き物</p> <p>ツキノワグマ</p> <p>胸に三日月形やV字形の白い模様がある。</p>
<p>小笠原・伊豆諸島にすむ生き物</p> <p>アカコッコ</p> <p>伊豆諸島とトカラ列島のみで繁殖する鳥。国の天然記念物に指定</p>	<p>小笠原・伊豆諸島にすむ生き物</p> <p>オガサワラオコウモリ</p> <p>小笠原諸島だけにすむコウモリ。国の天然記念物に指定</p>

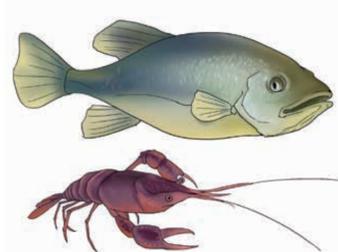


環境の変化と生き物

生き物は、山や川など、様々な自然の中でくらして、それぞれの場所でお互いに関わり合いながら生きています。しかし、森を切り開くなどの人間の活動によって、もともとその地域にいなかった生き物が入ってくるなど、生き物同士の関わりが変化している場所があります。



雑木林の中でモウソウチクが増えると、多くの場所が日かげになります。そのため、明るい草地进行を好む生き物の数が減ってしまいます。



池の中で、ブラックバスやアメリカザリガニが増えて、もともといた生き物を食べたり、すみかをうばったりしています。



植物が吸収する二酸化炭素の量

植物は、二酸化炭素を吸収するはたらきをしています。特に木は、草花よりも寿命が長いので、より多くの二酸化炭素を吸収しています。例えば、スギの木約350本で、都内の1世帯が1年間に出す二酸化炭素とほぼ同じ量の二酸化炭素を吸収することができます。



出典：林野庁の資料をもとに作成

イラスト出典：環境学習誌本「今日に明日に未来につなげる『とうきょう環境』」

また、森林は、若くて生長がさかんな時期に多くの二酸化炭素を吸収しますが、高れいになるとその機能が低下します。例えば、樹齢160年のスギは、樹齢20年のスギに比べて、二酸化炭素の吸収量が約3分の1になってしまいます。

自分にできる取組を考えよう

